

ステップアップ 畜産！



西部農業事務所家畜保健衛生課（西部家畜保健衛生所）

〒370-0074 高崎市下小島町 233

TEL 027-362-2261、FAX 027-362-2260



～記事～

- ★第93回牛豚等疾病小委員会及び第18回拡大豚熱疫学調査チーム合同検討会を踏まえた提言
- ★管内農場における繁殖母豚の豚熱中和抗体価分布について
- ★登録飼養衛生管理者接種フォローアップ研修について
- ★野生イノシシ豚熱検査実施状況について
- ★海外におけるアフリカ豚熱の発生状況について
- ★ブタの日本脳炎抗体保有状況について
- ★令和5年度畜産GAP研修会動画の配信について（一部記事割愛）
- ★堆肥化作業は臭気の発生に配慮をお願いします

～添付資料～

- ★アニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理等について
- ★農業用免税軽油の申請手続き

★第93回牛豚等疾病小委員会及び第18回拡大豚熱疫学調査チーム合同検討会を踏まえた提言

農場、豚舎出入時の衛生対策について、国の調査チームの提言（令和5年10月16日付け）を取りまとめました。

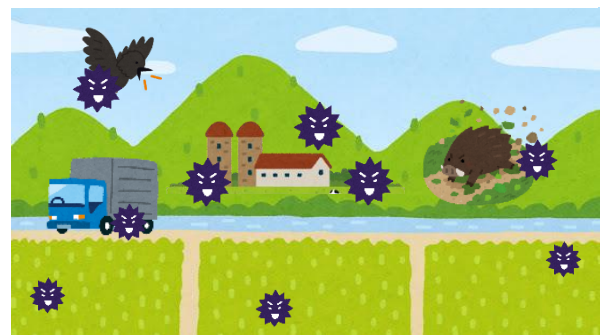
以下の提言（引用）を熟読いただき、農場を守る対策の参考にしてください。

*詳細は農水省HP→



提言1：農場における衛生対策

疫学調査により、佐賀県で発生した2例については島根県・広島県で確認されている野生イノシシに感染している豚熱ウイルスが、人・物・車両を介して発生農場に侵入した可能性が考えられた。また、近隣農場の続発は直接の侵入ではなく、周辺環境からの車両等による持ち込み、小型野生動物を介した侵入の可能性が考えられた。以上の点から次項目について再度点検する必要がある。



◆衛生管理区域及び豚舎への出入りの消毒について

① 衛生管理区域進入車両の消毒

- ・消毒ゲートがある場合も、土壌等が残存しやすいため動力噴霧器の併用が必要。

② 豚舎出入時の手指消毒、作業着・長靴の更衣等の作業について

- ・必ず、豚舎出入口で手指消毒または専用手袋の着用・畜舎毎の専用着、長靴の交換をすること。
- ・前室または出入口外側で脱ぐ等、豚舎内(清浄エリア)にウイルス持ち込み防止する対策が必要。

③ 豚・資材等を介した病原体の侵入防止

- ・使用後、洗浄消毒して保管後も汚染のリスクあり→使用前の洗浄消毒が必要
- ・母豚の移動もケージや屋内通路を推奨。

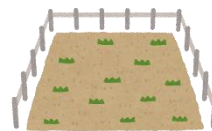
◆飼養管理者・獣医師の連携による毎日の健康観察と早期通報

- ・通報の遅れは感染拡大の要因。
- ・安易に否定せず、日々の連絡体制の整備。



◆農場・豚舎内への野生イノシシを含む野生動物の侵入防止対策

- ・発生農場では柵・防鳥ネット設置済みだが、隙間や破損部に侵入痕跡を確認。
- ・野生動物侵入の誘因となる飼料保管庫・堆肥舎への侵入防止対策として日常的な破損部分の点検・修繕が重要。
- ・柵周囲の除草・整理整頓も有効。



提言 2：地域や共用施設における衛生対策

佐賀県の2事例：明かな関連がない農場の伝播→近隣での発生は感染リスク大

- ・農場、飼料運搬会社、と畜場等の養豚関係者一体となった衛生対策の共有が必要。
- 共同堆肥舎・と畜場等の共用施設利用時前後における車両消毒の徹底

提言 3：地域における野生イノシシ対策

野生イノシシ感染確認地域では周囲環境に豚熱ウイルスが存在し、人・車両・器具資材によりウイルスの拡散リスクがある。

感染拡大防止のため、野生イノシシの感染確認状況を把握することは重要。

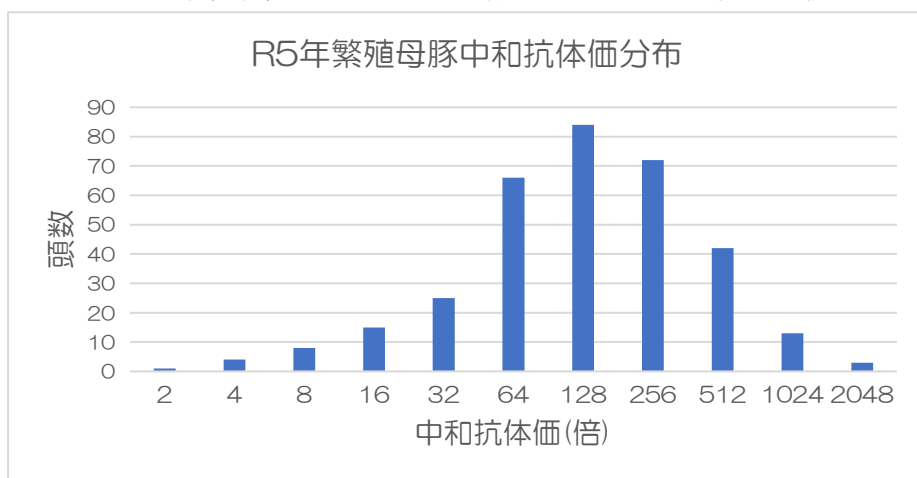
- ・サーベイランス強化
- ・捕獲強化
- ・感染状況に応じた、経口ワクチンの散布
- ・山林への立入り者への周知



★管内農場における繁殖母豚の豚熱中和抗体価分布について

昨年度より、繁殖母豚についてワクチン接種推奨日齢の推定のため多くの母豚の採血をさせていただいております。今年度の管内農場における豚熱中和抗体分布状況について現在の状況を報告します。

現採材時点の状況としても、**128倍を中央値**とする分布になっています。しかし、農場によってはやや低めの中和抗体価分布を示す場合も見られました。このことから、現在は**30日齢前後でのワクチン接種が推奨**され、さらに前倒しの傾向もみられます。30日齢よりも早めの接種になると、離乳していない状態での接種になる場合も考えられます。このような観点からも登録飼養衛生管理者によるワクチン接種を活用し、御自身でのきめ細やかなワクチン接種が実施できるよう、認定農場申請および飼養衛生管理者登録をご検討ください。



下期においても、
順次、農場採血を実施していますので、
ご協力よろしくお願いいたします



★登録飼養衛生管理者接種フォローアップ研修について

今年4月より登録飼養衛生管理者による豚熱接種が開始され、そのフォローアップ研修が**年明けに予定**されています。この研修は、登録飼養衛生管理者は受講必須であり、受講できない場合は飼養衛生管理者の登録が取り消しになる場合があるためご注意ください。

開催形式は、対面及びオンラインのハイブリッド開催を予定しています。登録飼養衛生管理者へは別途、直接畜産課より通知案内が送付されますので、御確認をお願いいたします。

また、認定農場の申請は随時受け付けておりますので、ご希望の場合は家畜保健衛生所まで御連絡ください。

手続きのための様式は群馬県 HP からダウンロードできますので、ご活用下さい。

群馬県 HP（畜産課）「豚熱対策について」のページの「県内における豚熱ワクチン接種について」の項目をご覧ください。

◆ <https://www.pref.gunma.jp/page/187305.html>

◆ 「群馬県 豚熱対策」で検索



★野生イノシシ豚熱検査実施状況について（R5.4.1～R5.12.7 検査）

＜西部管内での結果＞

市町村	高崎	富岡	安中	藤岡	甘楽	下仁田	神流	南牧	上野	合計
検査数	103	14	112	4	0	0	1	2	0	236
陽性数	10	1	0	0	0	0	0	0	0	11

＜県内の他地域での結果＞

地域	中部	吾妻	利根沼田	東部	合計
検査数	135	186	44	174	539
陽性数	7	2	0	1	10

イノシシの繁殖の季節(12月～2月)到来です。今シーズンは山地におけるエサ不足により野生動物が人里へ下りてくる被害が多くみられます。通常、雄と雌は別々に活動しますが、この時期は雄が雌に寄り添う形で行動しますので、感染の機会が増えます。

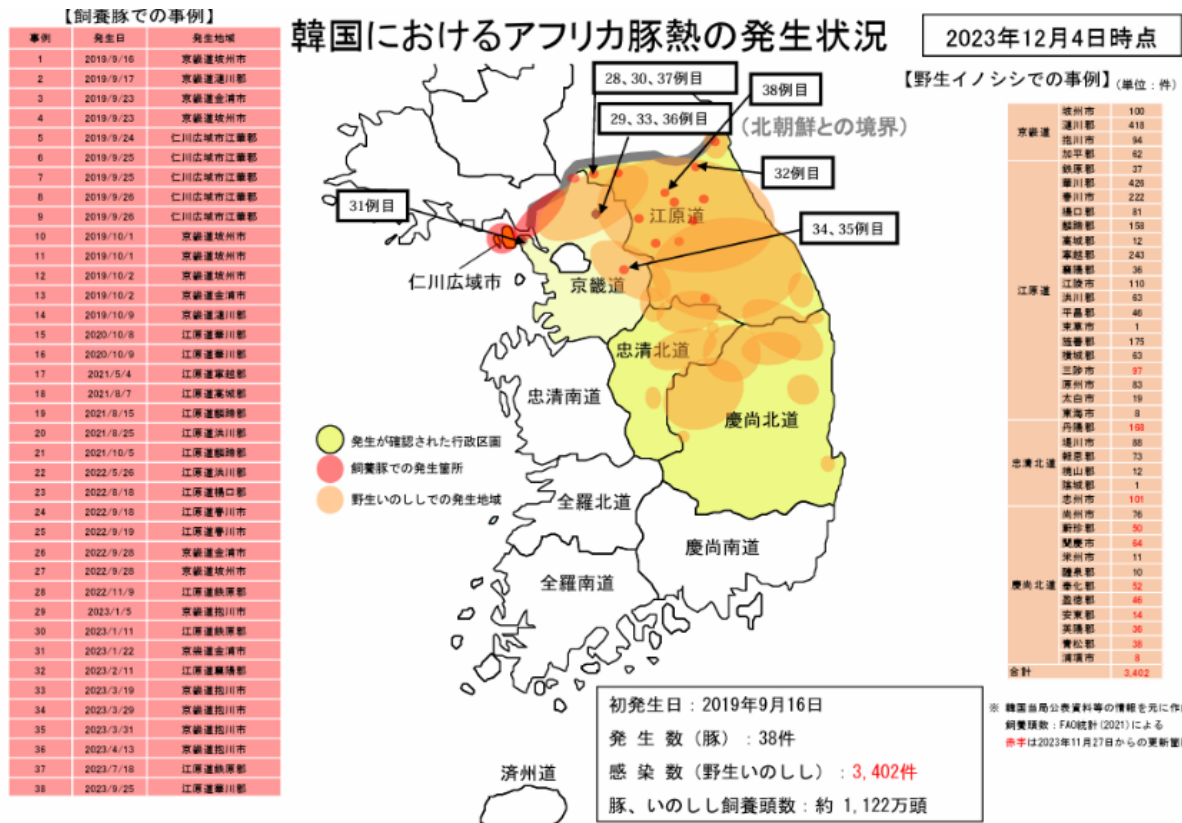
10月以降は昨年度に比べて、豚熱に感染した死亡イノシシや捕獲イノシシが非常に多く確認されています。イノシシの活動範囲とともにウイルスの動きも活発になっていると考えられ、またカラスやネコ等がウイルスをさらに広げる可能性があります。農場内にウイルスを侵入させないように今一度、野生動物対策の点検をお願いします。冬から春にかけてはイノシシの活動範囲も広がりますので、豚熱ウイルスの浸潤（広がり）に警戒していきましょう。



★海外におけるアフリカ豚熱の発生状況について

韓国では依然としてアフリカ豚熱の発生が継続しています。アジア諸国含め、世界中の多くの国で発生が確認され、野生イノシシにおいて広く浸潤している状況です。年末年始は、帰省や旅行など海外からの人の出入りが多くなる時期でもあります。またその後の春節にむけた来日人口も増加が予想され、口蹄疫含め、国内への侵入リスクが高い状況です。

畜産関係者のみなさまには感染症危険地域への渡航自粛をお願いしているところですが、農場におかれましても防疫対策（衛生管理区域への不要物品の持ち込み防止、作業服や長靴の消毒・交換等）の徹底・確認をお願いいたします。

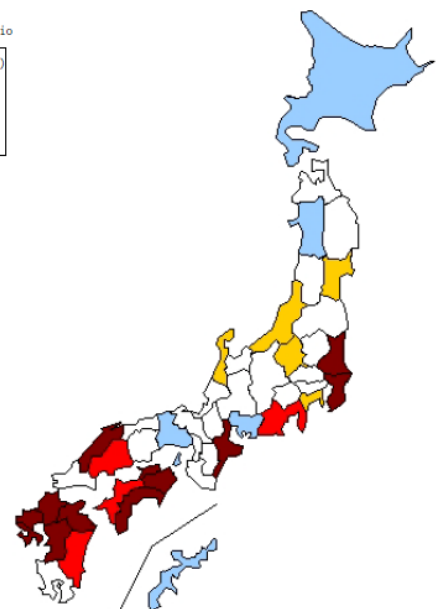
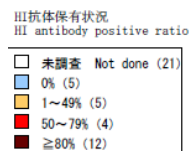


★ブタの日本脳炎抗体保有状況について

群馬県では、感染症流行予測調査事業としてと畜場で採取した血液を用いて豚の日本脳炎抗体保有状況調査を6月～9月にかけて実施しており、その結果は5%の抗体保有率でした。日本脳炎の抗体保有状況は西日本で多く、東北地方にかけ低くなっていますが、宮城県、秋田県でも抗体陽転している状況から、日本脳炎ウイルスも北上している傾向がみられます。関東では千葉県・茨城県が高い抗体保有率を示しており、群馬県での感染リスクも高くなる可能性が考えられます。

日本脳炎はブタでは妊娠豚での死流産の原因となります。また、人獣共通感染症でもあり、人では脳炎を起こします。適切な時期でのワクチン接種により、防御に努めましょう。

ブタの日本脳炎ウイルス感染状況
Infection of swine with Japanese encephalitis virus



※1 2023年5月～10月における最高抗体保有率(抗体価≧1:10)
The highest positive ratio(HI titer ≧1:10)during from May to October, 2023
※2 ()内は都道府県数
The number of prefectures in parenthesis
※3 2023年10月25日現在
As of October 25, 2023

★令和5年度畜産 GAP 研修会動画の配信について

令和5年度畜産 GAP 研修会を令和5年8月31日にぐんま男女共同参画センターで開催しました。その時の研修会動画を「tsulunos」ウェブサイトに掲載しましたのでご視聴ください。

1 公開期間

令和5年9月11日～令和6年3月31日

2 内容

- ① 畜産経営における農作業安全について
- ② 奥羽牧場の JGAP 認証（肉牛）の取組

2 動画 URL

★堆肥化作業は臭気の発生に配慮をお願いします

畜産業に起因する悪臭苦情の主な原因のひとつに、堆肥化处理にともない発生する臭気があります。家畜ふんを堆肥化することは、雑草種子や病原菌を不活化したり、悪臭や汚物感を取り除くために必要な作業です。良質な堆肥を生産することで、より多くの耕種農家に利用してもらうことが可能となります。

堆肥化处理により発生する臭気が、周辺住民からの苦情の原因とならないよう、以下の点に配慮しながら、良質堆肥の生産に努めていただきますようお願いいたします。

○堆肥の切り返し作業を行う時の天候や時間帯を考慮する。

→作業時は臭気が最も発生しやすくなります。天気の良い昼間の時間帯には、太陽の熱で暖められた地表付近の空気が、上昇気流となるため、発生した臭気が周辺に留まりにくくなります。

○堆肥化前にしっかりと水分調整を行う

→ふんにおが粉等の副資材を混合することにより、ふん中の水分量を下げて通気性を保つことで、好気的な発酵が進み、悪臭が発生しにくくなります。

○ふんと尿汚水はすみやかに分離する

→ふんと尿が混合されたまま放置すると、嫌気性微生物が増加し、悪臭が発生しやすくなります。ふんと尿は排せつされたら、早めに分離しましょう。

西部家畜保健衛生所 〒370-0074 高崎市下小鳥町233
TEL 027-362-2261 (緊急時は24時間対応) FAX 027-362-2260

★ 畜産業を廃業された方に送付された場合は、お手数ですがご連絡ください。